



コミュニティテラスを一般宿泊棟Gのドマヤキッチン、学生寮B-C(写真真実)が囲う。



学生寮個室、隣接する寮を望む。



学生寮ヒロマから見る。二つを囲むように、エンガワ、ヒロマ、ドマヤつながり二階とも一体的な空間。



アグリ探求棟クリエイティブホール。ハンガーは農機具が格納され、ステージで実技の演習も可能にしている。クリエイティブホールは六角形平面で、建具の開閉や家具配置でモードチェンジでき、左壁面は磁石が貼れる。

農の風景を創出する寮・交流と学びと協働を最大化する研修施設

アグリカレッジ福島は、実践的な技術力と経営力を備えた農業者を育成する教育機関。担い手の高齢化や減少等を背景に、学生・研修生の学びと農業者、指導者との交流を促す研修施設、中長期滞在する研修生用の宿泊施設及び学生寮を一体整備する計画。学生寮と一般宿泊棟、屋外作業の準備棟、スマート農業にも対応した研修ホールなどを、9つの分棟形式の木造とし、建築の軒先と各棟へのびる渡り廊下が既存校舎とも連続し、敷地全体を有機的につなぎ、集落から町へと連続するような景観を目指した。寮と一般宿泊棟は、農家家屋の曲り家のようなし字型の平面と、各棟と繋がる渡り廊下(ミチ)が、庭(ニワ)を囲い、その結末点(ツジ)に学生や農業者、地域住民などの交流と活動の場を与えた。アグリ探求棟と屋外作業準備棟は、エントランス空間として人々を迎え入れ、広場や各棟へ人々を誘う。アグリ探求棟は、六角形平面のホールを中心に据え、建具の開閉によって多方面につながり、講義だけでなくイベントや日常的な集いなど多様な活動を受け入れる空間となる。農業機械を収納する格納庫は、可動パーティションの開閉によりステージとつながり、最先端の農業機械による実践技術の習得にも対応でき、ガラスファイバー製のシャッター越しに機械の姿がのぞき、スマート農業を牽引する施設として、赤い六角形屋根とともにこのエリアのシンボルとなる。地域の人々や農業者が集い、交流し、実践的な学びによって、これからの農業を牽引する革新的リーダーが生まれる農の拠点となることを願っている。



ロータリーからキビタキ広場を見る。ツジやベンチが点在しアクティビティを誘発する。



ランドリールーング。寮のエントランスと洗濯室を兼ね、洗濯しながらカフェのように自由に通う寮生同士の交流の場。

- 【発注者】 福島県
- 【用途】 専修学校(研修施設・宿泊施設・寄宿舍)
- 【所在地】 福島県西白河郡矢吹町一本木 446-1
- 【設計監理】 辺見設計・C+A 共同企業体
- 【施工】 藤田建設工業、山田設備工業、高柳電設工業
- 【規模】 構造 木造(一部鉄骨造:渡り廊下)
階数 地上1階(一部地上2階)
敷地面積 397,940.00 m²(キャンパス全体)
建築面積 4,180.36 m²
延床面積 4,449.98 m²

共に暮らす・くつろぐ 集う・交流する 学ぶ・知る 農場に出る



全体断面図 S=1/600